

## 使用済み核燃料の処理に責任持て！ 静岡地本山本委員長の記事が新聞に掲載

静岡新聞 8月4日朝刊に、静岡地本山本委員長の投稿が掲載されました。4月29日にも投稿が掲載され、2度目です。

浜岡原発は現在運転停止中ですが、仮に運転をしなかった場合でも、原子炉建屋内の冷却プールには大量の使用済み核燃料があり、冷却し続けているのです。地震などで、この冷却用の配管が破損したり、電源が喪失したり、冷却水そのものがなくなった場合、重大事故の恐れがあります。再処理施設のプールも満杯というのに、稼働している原発からは、大量の使用済み核燃料がどんどん出されています。

電力会社は処理を考えているのでしょうか？ 処理が未確定で原発は運転し続けています。直ちに全ての原発を止めるべきです。

東海地震震源域の中央に、放射性物質が半永久的に保管されるのか？

静岡新聞  
8月4日朝刊

原発に県民は  
どう向き合う

川根本町・山本 繁明  
(会社員 48歳)

7月27日付の、浜岡原発1号機燃料プールに残された使用済み燃料についての記事を読んだ。1体に損傷があり、その処理について技術もルールも確立されていないという事実を知らされた。私たちは途方にくれるしかない。

ない。

今回、中部電力側が明らかにしたというが、まだまだ詳しく知らされていないことがあるのではないかと。例えば、使用済み燃料の乾式貯蔵計画だ。本来なら青森県六ヶ所村の再処理施設などに運ぶはずだが、再処理施設のプールが満杯なので、ある程度まで冷却した上でキャスクに入れて浜岡原発敷地内に保管しようという計画である。中電は、すでにそのための地質調査を進めている

しかし、持って行き場術や管理体制で安全を守れないからと原発敷地内

に保管されることになれば、危険な放射性物質を含む使用済み燃料を、半永久的にそこで管理しなければならなくなるので、私たちが県民として向き合わなければならないか。どのような技術的問題であると思っ



写真は浜岡原発